

フィリピン カオハガン島 研修報告書

◎研修に参加した目的

はじめは聞いたことのない島に研修に行くというのを見て興味を持ちました。調べてみると、日本の人が島を所有してその島を支えているというところにも興味がわいてきました。また、研修に参加することによって、他の学年や学部の人たちと交流し、今まで知らなかったことやいろいろなことを知れるきっかけになると思ったのと、旅行とは違う視点でその国のことをしれると思った、今の日本の便利さが当たり前の生活をしてきている中で、必要最低限の暮らしをして自分の生活を見直し、これから社会人になるにあたって欲を出しすぎない生活を心がけたいと思っていたのが研修に参加した目的です。

◎島主・崎山さんのお話

崎山さんからのオリエンテーションでは崎山さん自身のお話、島を買ったきっかけ、カオハガン島でのサンゴ礁の保護活動、医療設備（1/3の子供が3歳になるまでに亡くなっていた→奨学金でヘルスセンターを島につくる）、教育（小学校が2年生までだったのを6年生までにする）、カオハガンキルトについて（島民たちは島からほぼ出ないのでキルトからも愛情を感じることができる）、島民たちについて（島民たちのほとんどが15歳くらいで自分が一人で一生暮らしていけるような技術や知識をもっている）、島を所有することについて、これからのカオハガン島（2050年までにどんなカオハガン島にしたいか）についてなどのお話を聞きました。その中で印象に残っているお話が、

☆カオハガン島の1家族（7～8人）の1か月の平均年収は界最貧国のレベルの半分→島民みんなは笑顔→なんで？→自然が沢山（魚、日光、水など）

*島民たちは大きな自然からの沢山の恵みをもらって感謝してみんなでわけあっている
→現金収入は少ないけれどみんな助け合って幸せに暮らしている＝カオハガンの文化

☆貧しい人に何かを与える→貧しいと思ってなくても何かを与えることで貧しくなる

☆コミュニケーションとは、語学も重要だけれど相手の文化を受け入れていくことが1番大切、また話の内容をもっていれば語学力がなくてもコミュニケーションが取れるということ、笑顔で話していれば何語でも伝わる というお話が印象に残りました。



◎小学校訪問

学校は小学校（１年生～６年生）が一つあります。

中学校・高校・大学はなく、セブ島などの他の島の学校に通っているそうです。

今回の研修で小学校を訪問してみんなの将来になりたいものを透明のシートに描いてもらいました。午前は３年生、午後は４年生の子供たちに絵をかいてもらいました。

３年生は先生になりたい子が圧倒的に多く、４年生は先生の他に警察や医者や看護師になりたい子供たちがいました。

１学年違うだけでも、将来なりたものや描く絵が少しずつ変わっていて、みている方も楽しかったです



3年生



4年生

◎サンゴ礁保護について

カオハガン島はサンゴ礁に囲まれている島、環礁の上にできた島の一つで、約100年前から人が住み始め、その時から潮が引いたらみんなで海に出て食べ物をとる→サンゴ礁が

壊れる(そこにいる微生物なども死んでしまう)という状況で、それを知った崎山さんはサンゴを守る活動を始めたそうです。

崎山さんは壊れた海がどう回復するか（餌などやらず一切手を付けずに自然回復）を見るために、横1200m沖に向かって300mを囲ってサンゴ礁を観光客などから守り24時間島民が見張っています。崎山さんはずっと浮いていられるくらい、きれいだと言っていました。実際にサンゴ礁保護区域に行き、シュノーケリングをしてみて想像していたよりもキレイで崎山さんがずっと浮いていられると言っていた意味が分かりました。



◎ホームビジット

ホームビジットでは1人1家庭に行き、島の生活を感じてもらうというものでした。

初日からずっとと不安に思っていて、ホームビジット当日まで島を散歩しているときもどこかの家に行くのかソワソワしていました。私がホームビジットに行った家は、ジュビーさん(お母さん)、ロドルさん(お父さん)、ロビー(娘)の三人家族でした。

まず初めに、何がしたいかを聞いてくれて、何でもと言ったら魚釣りを勧めてくれ、魚釣りのための餌のヤドカリ探しを一緒にしました。中々見つからなく困っていると、隣の家のの方が沢山分けてくれました。そのもらったヤドカリの殻を叩いて魚釣りの餌の準備をしました。そのあとは、お昼ごはんの準備をするためにキッチンをきれいにしたり、お米を研いだりしてお昼ご飯の準備を手伝いました。ジュビーさんがお昼ご飯の支度をしている間、ロビーと一緒にバドミントンやバスケットボールをして遊びました。お昼ご飯は魚2種類に目玉焼き、ご飯でした。ご飯を食べた後は食器を片付けて、少し遊んでから海にでて魚釣りをしました。魚釣りを初めてやってみて、小さい魚しか釣れませんでしたでしたが楽しかったです。魚釣りをした後はボートで無人島まで行き、島を一周しました。

その後はお菓子を食べながら、いろいろなお話をしました。お話をした後は、ロビーと散歩してお父さんのロドルさんに会い、海辺で少しお話しをしてヤシの木の葉っぱで時計やメガネ、冠、ボールを作って遊びました。短い時間でしたが、日本ではできないような経

験を沢山出来ました。また、ジュビーさんがお昼ご飯の時やさよならパーティーの時に「ロビーは一人っ子だけど、今日だけはあなたがお姉さん」と言ってくれたことがとても嬉しく印象に残っています。また、私はあまり英語が得意ではないけれど、笑顔で話していればコミュニケーションがとれるということがわかりました。



◎今回 5 日間カオハガン島で生活をしてみて、水は海水を利用しているので、トイレの水が流れなかったり、蚊に刺されたりした時は困りましたが、不便とは感じませんでした。今までは電気や水は使いたいときに使えて、食べたいものは食べたいときに食べられるという生活をしてきましたが、今まで自分がどれだけ水や電気、食事を大切にしていなかったということを感じさせられました。これを踏まえてこれからの生活は必要なものは必要な分だけ使うようにしていき、物で満たされる生活ではなく大切なものをちゃんと考えていきたいと思いました。学部・学年の違う人たちと研修に行ったのでいろいろな視点から島民たちの考えなどを聞けたりして自分だけでは思いつかないようなことなどがあつてためになりました。そして、今まではコミュニケーションをとるには語学が第一と考えていましたが、崎山さんの言う通り笑顔でいれば何を伝えようとしているのかを受け取ってくれるし、自分も同じようにされたら受け取ろうと思い、これからは言葉が通じなかったり、伝えたい事がうまく伝わらなくても笑顔で積極的にコミュニケーションを取ろうと思いました。また、島で過ごしてみて、島民同士がお互いに平等だと思ってみんな助け合って生活することで、誰かを見下したり見下されたりせずストレスのたまらない生活をしているのを肌で感じられました。島では毎日時間を気にせずにのんびりとしている時間が多く、日本では時間を気にしすぎて生活しているということにも気づかされたので、これからはたまには時間に追われないような日を一日でも作ってみようと思いました。この研修では普段気にも留めないようなことまで気に留められたり、時間の大切さなどを実感できたので参加してよかったと思いました。